

【安倍政権のもとで超低速ながら、戦後二番目にわたって景気拡大期間が続いている理由】

7月9日に発表された民間銀行の貸し出し動向によると銀行の貸出残高は前年比2.1%増加した。

81か月連続の増加である。

↓

・6月の銀行貸出残高、前年比2.1%増 幅広く資金需要高まる 日本経済新聞

[https://www.nikkei.com/article/DGXLASFL09HIX\\_Z00C18A7000000/](https://www.nikkei.com/article/DGXLASFL09HIX_Z00C18A7000000/)

銀行貸し出しの増加は信用創造による預金創造が伴い、景気には強くプラスに働く。

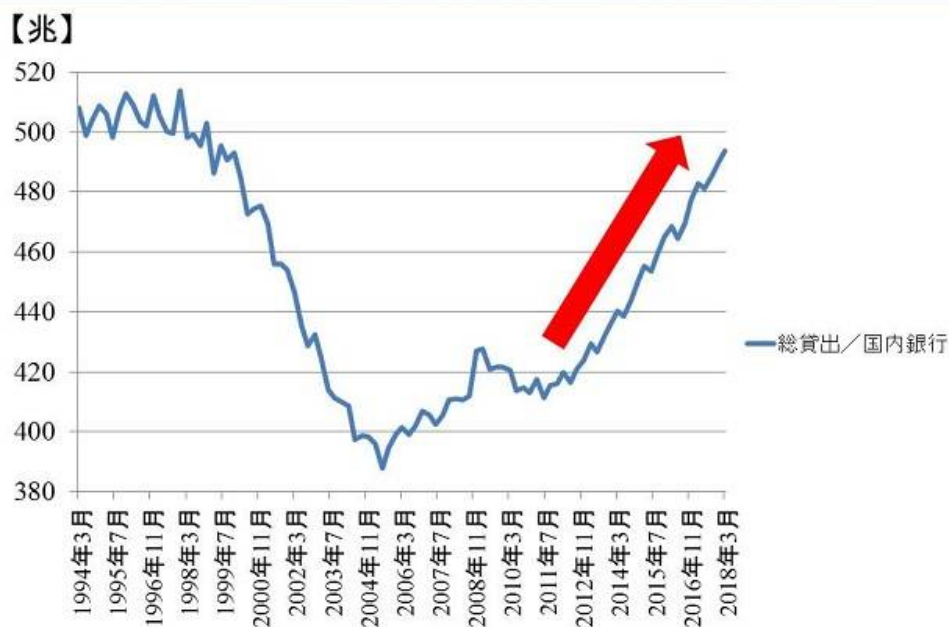
※銀行が貸し出しによって預金通貨を作り出す営みを信用創造という

これがアベノミクスが長期にわたって低空飛行であるが、景気拡大が続けている理由である。

今回は信用創造の影響を解説する。

次のグラフは、民間銀行の貸出残高の推移だ。

## 民間銀行の総貸出し残高が81か月連続で増加 信用創造の拡大が続く



2018年8月6日 日銀HPから天野統康作成

銀行貸出残高が 2012 年から一貫して増加を続けていることがわかる。

安倍政権の景気拡大期間は 2012 年 12 月から続いており、戦後二番目の長期にわたっている。

この原因は、

- ・金融庁の貸し出しに対する姿勢の緩和
  - ・マイナス金利政策など超低金利政策の影響
  - ・不良債権処理などが進んだ銀行の体力の増加
- などが考えられる。

↓

<http://ur2.link/Jtp8>

この銀行貸し出しの増加が景気に良い影響をもたらす原因は以下のとおりである。

- ・信用創造量の増加。銀行が貸出を行うと、同時に預金という購買力を無からつくりだす。
- ・貸し出された預金は、直ぐに取引に使われる

この二つの現状が同時に起こるため取引を拡大させる

この二つの効果が経済にもたらされるので、銀行貸し出しの増加は景気を上向かせる効果がある。

2012年以降の銀行貸し出し残高の増加が景気拡大をもたらしてきたのだ。

それでは、1990年からの銀行貸し出し残高はどうだったのかというと、実は今よりも多かった。

上記のグラフを見れば、90年代の残高は500兆円を超えていたのに、現在は500兆円に達していない。

90年のバブル崩壊以降、日本の銀行は貸し出しを減らし続けたのであり、それが日本の長期不況をもたらした原因だった。

90年に比べると地価も株価も大幅に下がっており、GDPもほぼ同じ。

この30年間の日本は殆ど経済成長しないという惨憺たる結果に終わっているのである。

これ以上日本を経済成長させないようにしようと、日本の政治経済を管理してきた国際銀行権力が決めたことによるものだろう。

ただし、銀行貸し出しによる信用創造も、実体経済に向かうか、金融経済に向かうかで大きく性質が異なってくる。

経済成長や物価などの実物面で影響が現れるのは実体経済であり、株や不動産価格などの資産面に影響が現れるのは金融経済である。

銀行貸し出しの増加が実体経済向けにより多く行われていくかどうか、今後の景気のカギを握っているのだ。